ケイトウ講習会資料

育苗期後半～発蕾時期までの管理

令和８年５月 28 日
京築普及指導センター
Ｊ　Ａ　福　岡　京　築

１　今後１ヶ月の気象予報

・気　　温：平年より高い
・降 水 量：平年並みまたは多い
・梅雨入り：６月中旬（平年より遅い）

２　管内の生育状況（育苗）

・発芽率は昨年と比べて高い。
・夜間の保温が不十分なほ場では、生育が少し遅れている。
・立枯病の発生は少ない。

３　育苗期後半～定植までの管理

（１）苗の葉色を緑に保つ（ストレスを感じさせない）

①液 肥 管 理：葉色を見ながら、OK-F-1（500～1000 倍）や液肥３号（1000 倍）を土壌かん注する。
かん水と同じように、土壌にたっぷり施用する（500cc/1 ﾄﾚｲ）。
定植後の初期生育を良くするため、定植直前にも施用する！

②温 度 管 理：日中、30℃以上の高温にしない。夜はしっかり保温する。

③かん水管理：培土を常に湿潤に保つ。



肥料が十分な状態（緑）



肥料が切れ始め（黄緑＋赤）



肥料不足（赤）

（２）セルトレイ内での立枯病の発生拡大に注意

リゾレックス水和剤（500～1000 倍）の土壌かん注（３L/㎡）
オーソサイド水和剤 80（600 倍）の散布（0.1～0.3L/㎡）

（３）定植時期（５月末～６月初旬）を逃さない

・根　　鉢：崩れず、巻きすぎない程度

・展開葉数：本葉 3～4 枚

・草　　丈：5cm 程度



定植適期の苗の様子

4　定植時、定植後～発蕾時期の管理

（１）定植時、根を切ったり、深植えしたりしないよう注意。

→ 活着が遅れる。

（２）定植後直ちに、かん水を十分に行う。

→ 細い根は乾燥すると枯死する。苗の根鉢と畝の土壌をなじませる。

（３）定植後、苗が活着するまで（約１週間）株元に毎日かん水する。

→ 苗が根鉢とその周辺部の土壌水分しか利用できないため。

※かん水ムラは生育のばらつきの原因となるため注意する。

（４）定植直後は、ネキリムシの被害に遭いやすいため注意。

→ ガードベイト A、ネキリベイトの株元散布（3 kg／10 a ）

（５）苗の活着後も、引き続きかん水管理を徹底する。

→草丈伸長に必須。草丈が確保できるまでは、基本的に乾燥厳禁！

（６）発蕾時期まで葉の色を見ながら液肥管理を徹底する。

→ 発蕾後の液肥施用は大花化の原因となる。



肥料が十分な状態（緑）



肥料が切れ始め（黄緑＋赤）



肥料不足（赤）

5　発蕾後（６月中旬）からの管理

（１）かん水

土壌の乾燥が続く場合は、かん水を行う。



発蕾の様子

（２）病害虫防除

・アザミウマ：蕾が吸汁されると、奇形花や芯止まりを引き起こす。

→ ジェイエース水溶剤 1000 倍、モスピラン顆粒水溶剤 2000 倍の散布。

・ヤガ類：幼虫が主に葉や蕾を食害する。６月末から発生が増加。

→アファーム乳剤 1000 倍、フェニックス顆粒水和剤 2000 倍の散布。

（３）ネット上げ

生育に応じ、草丈の３分の２の高さまで順次ネットを上げる。

→ 強風や降雨による倒伏を防ぐため。

６　その他の注意事項

⚠梅雨時期の畝の冠水に注意⚠

（１）ほ場の排水対策

①畝間の溝切

②排水口の清掃

（２）冠水後の立枯病対策

畝内の土壌がなるべく早く乾くように、マルチの裾を開ける。



畝の冠水後に発生した立枯病

＜R8 年度ケイトウの試験について＞

・課　題　名：基肥施用によるケイトウ品質向上対策

・肥　　料：①ロングトータル花き 1 号 100 タイプ（13-14-8）

②くみあい 48 号（16-16-16）

・施　用　量：①N 成分量 0.2kg/a、0.4kg/a

②N 成分量 0.2kg/a

・品種・作型：麗炎（8 月上旬開花）

・規　　模：各区 1 畝（約 50m）